

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	電動モビリティシステム専門職大学
設置者名	学校法人赤門学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
電気自動車システム工学部	電気自動車システム工学科	夜・通信			54	54	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学のHPにおいて公表（学部・学科/シラバスに掲載） https://www.mobility-ac.com/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	電動モビリティシステム専門職大学
設置者名	学校法人赤門学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

法人のHPで公表 （情報公開/役員名簿） https://www.akamon.org/jyuhoukoukai.html
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	東北経済産業局環境資源部長（前職）	2022/4/1 ～ 2025/3/31	学校法人の運営に係る権限と責任の所在を明確にしながら、意思決定に積極的に参画していく。
非常勤	（株）赤門自動車学校 校長（現職）	2022/4/1 ～ 2025/3/31	
非常勤	レオス・キャピタルワークス（株）（現職）	2023/5/26 ～ 2025/3/31	
（備考）			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	電動モビリティシステム専門職大学
設置者名	学校法人赤門学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学では、学生が教育課程の体系的な編成や個別科目の内容等を理解し、適時適切に履修できるようシラバスを作成し、公表している。</p> <p>シラバスの作成は、前年度中に授業担当教員が統一した様式に従い、各項目(科目名、担当教員、科目区分、開講期、単位数、対応するディプロマポリシー、科目の目的、学習到達目標、授業計画、成績評価の方法、評価基準、教科書、参考書・参考文献、事前準備、事後学修、質問への対応方法、関連講義)について作成し、年度初めの授業開講までに本学ホームページに掲載するとともに、新学期に冊子を配布し周知している。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>本学のHPにおいて公表 (学部・学科/シラバスに掲載) https://www.mobility-ac.com/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

本学の成績評価は、「秀、優、良、可及び不可の5段階とし、秀、優、良及び可を合格とし、不可を不合格とする」と学則で定め、シラバスに記載の成績評価の方法に基づいて評価を実施している。評価は、秀 (S) 100～90点、優 (A) 89～80点、良 (B) 79～70点、可 (C) 69～60点、不可 (F) 59点～0点に区分している。本学では、GPA制度を導入し、成績評価に応じてGPを付与し、GPAを算出している。

卒業の認定については、学則で定める期間以上在学し、所定の授業科目を履修し単位を修得した者に、教授会の意見を聴いた上で、学長が卒業を認定する。

学生には、成績評価及び卒業要件を記載した学生便覧を配付するとともに、オリエンテーションや毎学期修了後の担任教員との個別面談で、卒業要件や単位修得の進捗状況について説明している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学では、学修状況及び成果を数値的に示す指標としてGPA(Grade Point Average)制度を導入し、学生が学修状況を客観的に把握し、教員のきめ細やかな履修指導を推進している。

成績評価は、以下の表に定める区分で行い、修得した科目の単位数×GPの合計÷総単位数で算出する。成績評価の方法は、学生便覧に明記し学生に周知している。

評価区分	評定記号と評価内容	付加するGP
100～90点	S(秀)：特に優れた成績である	4
89～80点	A(優)：優れた成績である	3
79～70点	B(良)：概ね妥当な成績である	2
69～60点	C(可)：合格に必要な最低限度を満たした成績である	1
59～0点	F(不可)：合格には至らない成績である	0
-	N：単位認定科目であり、GPAの対象としない	なし

客観的な指標の
算出方法の公表方法

2024年度学生便覧及び本学のHPにおいて公表
(学部・学科/学生便覧に掲載)
<https://www.mobility-ac.com/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）を策定し、学生便覧および本学 HP において公表している。

専門職大学設置基準第 29 条各号に基づき、以下のとおり、卒業要件を設定する。

- ・本学に 4 年以上在学すること。
- ・128 単位以上を修得すること。
- ・実験、実習又は実技による授業科目に係る 40 単位以上を修得すること。
- ・前号の授業科目に係る単位に臨地実務実習に係る 20 単位が含まれること。
- ・特に総合科目について、学修の成果として卒業論文等を提出し、単位を授与することが適切と認められること。

学長は、上記の要件を満たし、かつ教授会の議決により卒業することを認められた者に対して卒業を認定し、学位を授与する。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

2024 年度学生便覧及び本学の HP において公表
(学部・学科/学生便覧に掲載)
<https://www.mobility-ac.com/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	電動モビリティシステム専門職大学
設置者名	学校法人赤門学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	法人のHPにおいて公表する (情報公開/財務情報に掲載) https://www.akamon.org/jyouhoukukai.html
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告(書)	同上

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学HPにおいて公表予定 (大学概要/情報公開/自己点検評価に掲載予定) https://www.mobility-ac.com/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 電気自動車システム工学部
教育研究上の目的 公表方法：2024 年度学生便覧及び本学の HP において公表 (学部・学科/シラバスに掲載) https://www.mobility-ac.com/
(概要) 【教育理念】 日々変化する世の中に、自動車の幅広い専門知識と技術を通し人間力を養い、将来性と可能性を拓き、生活の基盤をつくり社会に貢献する人物を育成する。 【建学の精神】 電動化と自動運転化に向かう自動車を中心とした 100 年に一度の大変革が起こりつつある自動車関連産業で、『Pioneer in e-Mobility System (電動モビリティシステム開拓者)』として、国内にとどまらず世界に向けて、これまでに無い新たな製品や新たなサービスの開発を行う設計者を育成する。 【大学の目的】 教育基本法及び学校教育法に則り、地域社会及び産業界との密接な連携によって、電気自動車システム工学分野を中心に、最先端の学術研究に裏打ちされた実践的かつ応用的な能力を授け、豊かな創造力と高い倫理観を持った持続的社會をけん引する即戦力となる実践的な人材を育成・輩出することを目的とし、もって、地域社会の振興と自動車関連産業その他の電動モビリティシステム関連産業の発展に貢献することを使命とする。 【養成する人材像】 物事を論理的・科学的に捉える能力、リテラシー水準のデータ分析・AI 活用技法、幅広い社会・利用者ニーズを把握する能力など職業的自立を図るための能力を有し、電気自動車システム全体および構成要素(電池、モーター・インバータ、車体、自動運転)やシミュレーションを用いた開発手法に関する理論・技法と技術者としての倫理観を備え、グローバル産業において求められる適切なコミュニケーション能力やビジネス関連知識等の応用的・創造的な能力を有し、これらを統合させた実践的かつ応用的な総合力を主体的に身に付け、電気自動車関連の企業において、国内にとどまらず世界に向けて、これまでに無い新たな製品や新たなサービスの開発を行う設計者。
卒業又は修了の認定に関する方針 公表方法：2024 年度学生便覧及び本学 HP において公表 (学科/学生便覧/2024 年度入学者用に掲載) https://www.mobility-ac.com/
(概要) 本学では、電動モビリティシステム専門職大学学則において卒業認定について規定するとともに、ディプロマポリシーを定める知識・スキルを備えること、その他必修等の諸条件を満たしたうえで、卒業論文審査に合格することを卒業要件として設定した。 【電動モビリティシステム専門職大学学則より抜粋】 (卒業) 第 3 2 条 第 6 条に規定された期間以上在学し、所定の授業科目を履修し単位を修得した者に、教授会の意見を聴いた上で、学長が卒業を認定する。 【ディプロマ・ポリシー】 DP 1 職業的自立を図るための能力 DP 2 電気自動車システム分野の設計者に必要な専門的な能力 DP 3 電気自動車システム分野に関連する応用的・創造的な能力 DP 4 電気自動車システム分野の設計者としての総合力

【卒業要件】

次により必修科目 92 単位、選択必修科目 8 単位以上を修得すること。卒業単位数は、以下の要件を満たす合計 128 単位以上とする。

1. 基礎科目 20 単位以上
ー必修科目 18 単位を含む、合計 20 単位以上
2. 職業専門科目 80 単位以上(臨地実務実習科目 20 単位を含む。)
ー必修科目 56 単位、選択必修科目 8 単位以上を含む、合計 80 単位以上

選択必修科目は以下のとおりとする。

【専門基礎科目】 電池システム実習Ⅰ、モーター・インバータシステム実習Ⅰ、車体システム基礎実習、自動運転システム実習Ⅰの中から 1 科目以上 2 単位以上

なお、ここで選択・履修した科目によって、次の専門発展科目の分野選択が制約されることとなる。

【専門発展科目】 次の 4 分野の中で、3 年次の 4 学期に選択した分野の科目を 4 単位
なお、選択した分野以外の分野の科目をも履修し単位を修得した場合は、選択科目の単位とみなし卒業に必要な単位数に含めることができる。

[電池分野] 電池化学応用、電池システム実習Ⅱ

[モーター・インバータ分野] パワーエレクトロニクス、モーター・インバータシステム実習Ⅱ

[車体分野] 車体構造学、車体システム解析実習Ⅰ

[自動運転分野] 自動運転におけるセンシング技術、自動運転システム実習Ⅱ

【専門選択科目】 次の科目群の中で、自身のキャリアプランに応じて選択し、1 科目以上 2 単位以上

なお、2 科目以上履修し単位を修得した場合は、選択科目の単位とみなし卒業に必要な単位数に含めることができる。

[車体・部材の材料系知識] 金属材料工学、高分子工学

[工業デザイン系知識] ジョルジェット・ジウジアーロの工業デザイン論、モビリティデザイン論

[自動車システム・環境系知識] MaaS を想定した交通政策論、5G の科学

[権利・品質系知識] 知的財産権概論、品質管理

[サービス系知識] サービス工学、電動モビリティを想定したサービス論

3. 展開科目 20 単位以上
ー必修科目 10 単位を含む、合計 20 単位以上
4. 総合科目 8 単位 (必修)
5. 実験・実習科目から 40 単位以上(臨地実務実習科目 20 単位を含む。)
履修登録の上限：30 単位/半期 (1・2 学期又は 3・4 学期を指す。以下同じ。)、年間 60 単位。なお、一定の要件を満たす場合には、当該上限を超えた履修登録を認める場合がある。その場合、学生が 1・2 学期又は 3・4 学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は 34 単位/半期、年間 68 単位とする。

教育課程の編成及び実施に関する方針 公表方法：2024 年度学生便覧 (冊子) 及び本学ホームページにおいて公表 (学科/学生便覧/2024 年度入学者用に掲載)

<https://www.mobility-ac.com/>

(概要)

本学の教育課程については、専門職大学設置基準第 13 条の規定に基づき、「基礎科目」「職業専門科目」「展開科目」「総合科目」と区分する。学修すべき授業科目には、主に理論を学ぶ講義の他に実践的な経験から学ぶ実習、臨地実務実習がある。また理論と実践からの学びを集成する研究ゼミナール・卒業研究を実施する。

ディプロマ・ポリシーに照らして、本学学生全員が身に付けるべき資質・能力を養うための科目を必修科目とし、学生が自らの課題認識・キャリアプランに基づいて履修を選択す

<p>る科目を選択科目とする。</p> <p>カリキュラム・ポリシー</p> <p>ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・スキルなどを修得させるために、基礎科目、職業専門科目(工学基礎、専門基礎、専門発展、専門選択)、展開科目、総合科目を体系的な教育課程として編成し、講義、実習(臨地実務実習含む。)を組み合わせた授業を展開する。</p> <p>CP1 基礎科目では、職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育内容で構成する。</p> <p>CP2 職業専門科目では、電気自動車システム分野に関する知識・スキルを身につけ、最終製品あるいは部材等の開発に活用できる教育内容で構成する。</p> <p>CP3 展開科目では、電気自動車システム分野に関連する応用的な能力であって、創造的な役割を果たすために必要な能力を育成する教育内容で構成する。</p> <p>CP4 総合科目では、修得した知識・スキルを総合し、電気自動車システム分野の設計者としての実践的かつ応用的な能力を総合的に向上させる教育内容で構成する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 公表方法：本学 HP において公表 (入試情報/各学生募集要項に掲載) https://www.mobility-ac.com/</p>
<p>(概要) 本学の建学の精神及び教育理念に共感する者であって、以下の方針に該当する者を受け入れる。</p> <p>AP1 電気自動車システムにかかる専門知識・スキルを学ぶために必要となる高等学校卒業程度の英語、数学、理科(物理または化学)の教科書水準の基礎学力を備えている。</p> <p>AP2 電気自動車システムに興味があり、その専門知識・スキルを用いて環境・エネルギー問題や地域等の社会課題の解決のため、新たな商品・サービス・ビジネスを生み出したいという意欲がある。</p> <p>AP3 自分の考えを口頭や文章で他者にわかりやすく説明することができ、また、他者の考えを理解しようとする姿勢を持っている。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：本学の HP において公表 (大学概要/情報公開/組織図に掲載) https://www.mobility-ac.com/</p>
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
電気自動車システム工学部	—	14人	6人	2人	1人	2人	25人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			20人				20人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：大学のHPにおいて公表（教員紹介に掲載） https://www.mobility-ac.com/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
電気自動車システム工学部	40人	2人	5%	80人	5人	6.3%	0人	0人
合計	40人	2人	5%	80人	5人	6.3%	0人	0人
(備考) 令和5年度4月に開学し、現在学年進行中								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
電気自動車システム工学部	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考) 令和5年度4月開学のため該当なし				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>年間授業計画（シラバス）は、毎年12月から1月にかけて授業担当教員が作成し、3月下旬に本学のHPで公開している。シラバスの項目については、授業の目的や到達目標、計画、成績評価方法を含め、学生が履修する準備を進めるために必要な項目を設定している。</p> <p>教育課程の編成に当たっては、毎年3月に教育課程連携協議会を開催し、産業界及び地域社会から選抜された委員の意見を勘案し、聴取した意見を検討の上、本学の教育課程に反映する。その結果は、次に開催される教育課程連携協議会に報告するというPDCAのサイクルを構築している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<p>本学の成績評価は、「秀、優、良、可及び不可の5段階とし、秀、優、良及び可を合格とし、不可を不合格とする」と学則で定め、シラバスに記載の成績評価の方法に基づいて評価を実施している。評価は、秀(S) 100～90点、優(A) 89～80点、良(B) 79～70点、可(C) 69～60点、不可(F) 59点～0点に区分している。本学では、GPA制度を導入し、成績評価に応じてGPを付与し、GPAを算出している。これらの成績評価制度は、学生便覧に明記し学生に周知している。</p> <p>卒業の認定については、学則で定める期間以上在学し、所定の授業科目を履修し単位を修得した者に、教授会の意見を聴いた上で、学長が卒業を認定する。</p> <p>学生には、卒業要件を記載した学生便覧を配布するとともに、オリエンテーションや每学期修了後の担任教員との個別面談で、卒業の基準や単位修得の進捗状況について説明を行っている。</p>				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
電気自動車 システム工学部	電気自動車 システム工学科	128 単位	有	30 単位 (半期) 60 単位 (年間)
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：公表方法：本学のHPにおいて公表
(大学概要/キャンパス紹介に掲載) <https://www.mobility-ac.com/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
電気自動車システム工学部	電気自動車システム工学科	860,000 円	240,000 円	480,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>本学では、充実した履修指導など学修支援を行うため、各学年に対して「学年担任」「学年副担任」を設置する。学年担任・学年副担任は、担当する学年の学生に対して、所属研究室の指導教員や事務職員等と連携しながら、学修上の助言や履修登録等に関する指導、身体面・心理面の課題への対応その他の学生生活に適應するための相談、学生が行う教務上の手続き等の支援を担う。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学生の就職支援を行う組織として、就職委員会を設置している。就職委員会は、モビリティシステムにかかる企業等の人材ニーズを常に調査するとともに、企業等の採用権限を有する者とのネットワークを構築するなどして、卒業生が円滑に就職できるよう環境整備に努める。</p> <p>また、就職活動ガイダンス、学内企業説明会、企業見学会などの関連イベントを企画・開催するほか、自己分析・ES 作成指導、模擬面接、精神面のケアなどを学生の就職活動実務に対して、積極的な支援を提供する。</p> <p>事務組織としては、大学事務局の学務課就職担当が就職委員会の事務を執るとともに、日常的な学生からの相談の窓口対応や、企業パンフレット等の配置、求人票の掲示などの情報発信を行う。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>大学内に保健室を設置し、学生の怪我等の応急処置や健康診断を管理する。</p> <p>心の健康については、学年担任・副担任が連携して、学生の情報を共有し適宜対応していく。また、本学の教育研究においては、安全上の措置を講じた場合においても事故等が発生するリスクがあることから、以下の項目を始めとする安全管理の内容等を盛り込んだ安全の手引を作成し、学生、教職員に配布し、事故防止に努めるとともに、ヒヤリハット等の状況を把握し蓄積されたノウハウを、共有・文書化して継続的改善を実施していく。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：(教員紹介/研究シーズ集に掲載) https://www.mobility-ac.com/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F106310101234
学校名 (〇〇大学 等)	電動モビリティシステム専門職大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人赤門学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		0人	0人	0人
内訳	第Ⅰ区分	0人	0人	
	第Ⅱ区分	0人	0人	
	第Ⅲ区分	0人	0人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				0人
合計 (年間)				0人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	0人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。